

## 平成 27 年度第 1 回大磯町総合計画審議会結果概要

○日時 平成 27 年 8 月 17 日（月）午後 3 時 15 分から午後 5 時 15 分

○場所 本庁舎 4 階第 1 会議室

○出席者（会長）成田委員（学識経験者）

（委員）青山委員（教育委員会教育長職務代理）

岩田委員（区長連絡協議会副会長）、重田委員（商工会会長）

井上委員（観光協会会長）、奥野委員（消防団団長）、國久委員（公募町民）

○事務局 参事（地域総合戦略担当）、政策課長、政策課担当職員

○議題（1）後期基本計画及び総合戦略に係る策定体制等について

（2）後期基本計画の進捗について

○会議記録

### 1. あいさつ

会長より次のとおりあいさつ

後期基本計画と併せて、国が主導する人口減少対策などを目的とする総合戦略の動きが新たに生まれている。この総合戦略は、現在、策定を進めている後期基本計画と連動して進めていく計画になるので、国や県、近隣自治体の動向なども意識しつつ、この 2 つの計画を整理しながら、町の最上位計画である総合計画後期基本計画の策定を進めていきたいので、よろしく願います。

### 2. 議事

（1）後期基本計画及び総合戦略に係る策定体制等について

資料に基づき事務局より説明を行い、総合計画審議会委員がまち・ひと・しごと創生住民会議委員を兼ね、一体的に後期基本計画と総合戦略を策定することを提案し、次のとおり意見提案及び質疑応答

◎総合計画審議会委員にとっては役割が増えることになる。スケジュールは総合計画の策定に合わせて組み込まれるが、会議の時間は総合戦略に関する審議の分が増えるのか。（会長）

・時間はできるだけ従来と同程度の 2 時間程度としたい。事前に資料を配布し、スムーズに進められるようにしたい。（事務局）

◎それぞれの計画の性質はどのような違いがあるのか。(会長)

- ・総合計画の重点プロジェクトを抜き出して、人口減少・少子高齢化対策に資するものに特化した計画が総合戦略となる。(事務局)

◎総合計画で最も重要となるのが財政である。計画書からは事業を実施するための費用をどのように捻出するのが見えてこない。(委員)

- ・資料2ページのとおり、今後策定していく人口ビジョンから、人口や年齢構成を踏まえて財政推計を行う。それにより生じるであろう歳出入の乖離は、行政改革によって解消し、総合計画及び総合戦略の実効性を確保する考えでいる。中期基本計画までは、財源や事業費の見込みが示されていなかったため、後期基本計画では記載するようにしている。(事務局)

以上の質疑応答の後、重田委員より2つの計画の関連性が見えないと議論が進まないのではないかと提案により、議題(2)の説明後、併せて審議することとなった。

(2) 後期基本計画の進捗について

資料に基づき事務局より説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答

□総合計画と総合戦略の関連及び策定体制について

◎町独自で進める重点プロジェクトとはどういったものか。(会長)

- ・原則として重点プロジェクトは全て総合戦略に位置付けていく。重点プロジェクトに位置付ける事業は各課に照会しているところである。総合戦略の方向性には合わないが、町として重点的に進めていく事業があれば、町独自で進める重点プロジェクトとして位置付ける。(事務局)

◎総合戦略で実施する事業は総合計画にも盛り込んでいくということか。(会長)

- ・そのように考えている。(事務局)
- ・大枠を総合計画で、詳細を総合戦略で定めていくと理解した。(委員)
- ・総合計画と総合戦略は密接に関連しているので、審議が別の会議体になると不都合が起きそうである。(会長)

◎新型交付金の申請時期はいつ頃か。時期が定められているのであれば、それも意識する必要がある。(委員)

- ・申請時期はまだ決まっていない。国の平成28年度予算には1,000万円が概算要求されているが、交付金のメニューも定かになっていない。できる限り交付金を充てて進めていきたいが、交付金の措置がなくても実施すべき事業はあると思う。(事務局)

- ・町単独として進めることも必要だとは思うが、できるだけ交付金を活用すべきと思う。(委員)

◎交付金は様々な条件が付いて、使い勝手が悪いこともあるが、現時点でどのような施策に活用できるという見込みはあるのか。(会長)

- ・総合戦略の4つの基本目標に向けて具体の事業が示されると想定されている。国からは200のパッケージが示されていたが、新型交付金の見込みはまだ不明である。(事務局)

□重点事業について

◎老人福祉の見直しが必要だと思う。今後は若い世代への福祉を充実すべきである。(委員)

◎防災の問題は重要になる。今後大きな地震の発生が予測される。その対策が盛り込まれていない。また、災害発生後の計画も備えていないといけない。(委員)

- ・災害対策のことをもう少し強調し、どのように安全・安心の対策を講ずるのかを示してもよいかと思う。(会長)
- ・災害への対策は「輪」プロジェクトと考えている。まだ内容は検討中であるが、この中で実現していくものと考えている。(事務局)

◎人口が減少すると世帯も減少する。固定資産税も減少することになるが、そのことへの対策は考えているか。また、人口の減少に合わせて職員数を減らすことも考えているのか。(委員)

- ・人口が減少すると空き家が増加するので、対策を講じて今の人口を保っていききたい。人件費は町の歳出の22~23%を占める大きなものになるので、人口が減ってくれば職員数や給与を見直さなければならないと思っている。まずは、大磯町に住んでもらう方策を進め、若い世代を呼び込んでいきたい。(事務局)

◎流入人口を増やすとのことだが、実際に大磯に移り住んだ人が、買い物が不便だからと言って出て行ってしまう。歩いて行けるところに商店がないと定住は進まないと思う。若い人は大磯町に住みたがっているのに、便利な町にしていかないといけないが、その方法が見えてこない。新たに建設するマンションの1階を店舗にするといった政策誘導等も必要である。(委員)

・買い物が不便であるとの意見が前回の審議会でも出されていた。解消するのは難しいことではあるが、今回の計画ではどこかに含まれているのか。(会長)

・町民アンケートでも同様の意見が出されている。地域づくりや産業という観点から取り組んでいくことになると考えられる。何らかの位置付けをしていきたい。(事務局)

・近くに商店があるということは、子育てしやすい町としても不可欠のことと思う。(委員)

◎重点プロジェクトを進めていくための受け皿が必要である。交付金が獲得できても、それを活用する町の企画力・立案力が不足しているように思う。ほとんどが外注で計画を作るところから始めており、すぐに効果が出るようなことが実施されていない。計画ばかりで、それを実行する受け皿が欠如している。町民が受け皿となれるよう、考える力が身につけられるようなまちづくりが必要と思う。(委員)

・まちカフェにおいて町民のアイデアに手がかりを求めてきたのだと思う。具体的にどのようなことをイメージしているのか。(会長)

・例えば、単に「雇用を増やす」というのではなく、もっと具体的に「職場の数を増やす」とすることである。そういうことが住民に説明されないの、理解されていないのではないのか。具体的に町民がイメージできるようにしないとイケない。(委員)

□重点プロジェクトの名称について

◎4つのプロジェクトの名称「花鳥風輪」についてはどうか。(会長)

・若い世代に受け入れられるかになると思う。四字熟語としたのは分かりやすい。(委員)

・計画書の中で「花鳥風輪」という言葉が唐突に現れるような違和感がある。スムーズに導入できるような流れが必要ではないか。(委員)

・「花」を観光、「鳥」を子どもとしているが、連想しにくいのではないのか。それらを繋げるものがあると理解しやすく、覚えやすくなる。(会長)

・「輪」だけ自然のものではないので、造語にするのであれば、別の言葉に置き換えてもよいのではないのか。大磯をイメージできるものであればよい。(委員)

□計画書の構成等について

◎町民に読んでもらうためには、情報過多になっては受け入れられない。総花的になるほど読んでもらえなくなってしまう。今回計画書のページ数を減らしたことは一つのポイントである。減らすためには本質となる事項を入れ込まなければならない。  
(委員)

◎平成 27 年 1 月に総務省より統一的な基準による地方公会計の整備促進についての通知がされたが、これは民間の考えを取り入れるということであり、23 ページに財政見通しを加えたことは進歩であると思う。(委員)

◎人口を増やしていくためには、それぞれの施策に対して、もう少し具体的に人数を示していくべきだと思う。今さら調査をしている段階ではなく、二宮町の同居・近居推進事業のように定住に直結する取組みが必要と思う。そこまで考えないと計画だけで終わってしまう。また、事業の効果がどうであったかが検証されていない。  
(委員)

- ・ 今後は PDCA サイクルにより実施していくことが明記されている。(会長)
- ・ 数値目標が達成されても、事業の目標が本当に達成されるのかが見えてこないのが問題である。(委員)

◎計画書は全町民に配布されるのか。町民としては、できるだけ読まれやすく、分かりやすいものであってほしい。(委員)

- ・ 全戸配布は予定していない。(事務局)
- ・ 町民の目に触れやすいのは概要版になると思うので、概要版でより分かりやすくなるとうい。(会長)

### 3. その他

◎次回の審議会は 9 月下旬～10 月上旬に実施し、本日意見をいただいた重点プロジェクトの方向性をもとに、重点プロジェクトの内容や部門別計画について議論していきたい。改めて日程調整を行わせていただく。(事務局)

以上